

2021年度 米子北斗中学校・高等学校 学校自己評価表【分掌・教科・学年】

学校教育目標	社会の各分野において指導的役割を果たし得る優れた人材の育成（次世代リーダーの育成）
---------------	---

～育てたい生徒像～

<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな学力を礎として、思考力・判断力・表現力を身につけ、主体的に課題を解決できる生徒 2. 多様性・協働性とともに、国際的視野を身につけ、グローバル化する社会で活躍できる生徒 3. 諸行事や部活動を通して健やかな心身を養い、ボランティア活動や地域の諸活動に積極的に参加する生徒

校 訓
自学自律
本年度の学校目標
自ら考え、判断し、行動する

【評価基準】 達成目標に対する達成状況を数値化(割合)し、100%～80%⇒A 80%～60%⇒B 60%～40%⇒C 40%～20%⇒D 20%～0%⇒E とする

【分掌】

	2021年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2020年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
総務部	PTA活動は役員と連携が取れており、問題はない。学校内での活動を充実させる必要がある。	■ SDGs活動の推進と探究学習の推進を目的に、各分掌・学年の活動をサポートする。	■各学年の探究学習やSDGs推進活動において、外部講師派遣依頼や研修旅行の折衝など、学年や他分掌の業務の補助を行う。 ■総務部員が他の分掌の補助人員として、各分掌活動への協力を進めていく。	■		■	■		
教務部	新学習指導要領を踏まえ、評価の方法を高校では5段階の絶対評価とした。また、中学校も今年度から同様な評価法を導入する。	■新学習指導要領に係る新教育課程について、研究・作成(高校)、実践(中学)を各教科と連携を図りながら具体化している。	■新学習指導要領の研究を各教科でさらに進めてもらい、具体案の作成(高校)、授業実践(中学)できるところまで協力する。 ■新学習指導要領により、大学入試教科・科目がどのような影響を受けどう変化するかを研究する。	■		■	■		
進路指導部	中学生の進路意識、職業への関心がまだまだ醸成されておらず、高校での進路目標決定の遅れにつながっている。	■要望に見合った進路情報の提供と、キャリア教育の充実に努め、中学生の進路意識高揚を促す。	■大学・予備校・模試会社等の説明会、分析会等に積極的に参加し、情報収集に努める。適切な機会に適確な情報を提供する。 ■講演会、説明会、懇話会等を企画し、総合学習の進路探求に役立つ情報提供に努める。	■		■	■		
生活指導部	スマートフォンを適切に使用できない生徒がいる。	■スマートフォンの適切な使い方について、倫理観および規範意識を高める。	■SNSによる誹謗中傷に関する講演または授業を実施する。 ■生徒と保護者を交えて、スマートフォンの利用に関するルールづくりを行う。	■		■	■		
保健管理部	マニュアルに沿った掃除はできるようになった。掃除道具の破損が多い。	■校内美化にSDGsの視点を取り入れる。	■校内で古紙の回収を行うことでゴミの量を減らす。(SDGs12番つくる責任つかう責任) ■道具が壊れることが多いため、掃除道具の置き方を一部変更する。(SDGs12番つくる責任つかう責任)	■		■	■		

	2021年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2020年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
生徒会指導部	生徒の中に主体性が芽生え始めている。	■北斗祭等の学校行事において、生徒が主体的に考え活動出来る場面を増やし主体性を育む。	■生徒会、代議員会、執行委員会等の会議を通して、多くの生徒の意見を反映できるような企画を立案させる。 ■各行事の役割分担を明確にし、生徒各自に行事を牽引させ責任感を持たせる。						
人権教育部	コロナ禍でPTA主催の人権講演会は中止となったが、10月を「北斗人権月間」とし、ポスターによる啓発活動をおこなった。「PTA人権部だより」は予定通り年2回発行した。	■PTA人権教育部と連携し、保護者への人権に関する啓発活動を充実させる。	■PTA人権教育部と協議し、保護者のニーズを確認する。 ■BLENDで発信する情報と、HPIにアップする情報とを精査する。						
事務部	迅速かつ丁寧な対応に努め、来訪者の立場を考えた対応の徹底が必要である。	■迅速かつ丁寧な行動に努め気持ちの良い対応を心がける。	■用件等を整理し慌てず落ち着いた対応をする。 ■電話3コール対応。電話の保留時間の短縮のため適切な場所に繋ぐ。						
特別支援委員会	個別の指導計画に従った指導を徹底するため、計画の立て方などの研修が必要。	■特性のある生徒に対して全職員統一した支援を行う。	■指導計画に沿って個々の情報を共有する。 ■専門家から助言を受けたことを全職員で共有する。						

【教科】

国語	抽象的思考が身につくよう、複数のテキスト・資料を読解する授業を取り入れてきた。	■SDGsの視点を意識した授業を実施する。	■教材を適切に選定する。 ■他教科と連携し、実施する。						
社会 地歴 公民	主権者教育を計画通りに実施できた。前年度実施できなかった模擬投票も実施でき、生徒が主権者としての意識を高めることができた。	■SDGs16番目の達成目標「平和と公正をすべての人に」の実現にむけた取り組みとして、高校生を対象に主権者教育を実施し、生徒一人一人の政治に対する関心と主権者としての意識を高める。	■現代社会の授業を中心に、政治制度に対する理解を深める。また、今年度版の「私たちが拓く日本の未来」が配布され次第、学習を進める。 ■外部機関と連携し、主権者教育を実施する。10月を目処に模擬投票ができるよう、計画を進める。						
数学	中学生の中には、早いうちから苦手意識をもつ生徒が少なからずいる。	■数学的活動の楽しさや数学のよさを実感させ、粘り強く考えさせるような授業を実践する。	■授業では、教科書内容の説明の中に数学史や実生活への利用を織り込んで生徒に数学への興味・関心をもたせる。 ■宿題・単元ごとの確認テストなどで生徒の定着度をこまめに点検し、できる喜びを実感させる。						

	2021年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2020年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
理科	昨年度は、各学年で行ったSDGsの学習・活動により生徒の意識も高まりつつある。	■SDGsに関わる課題研究に取り組みさせる。	■授業の中で、SDGsと関連の深い自然環境やエネルギーについて深く触れ、興味を持たせる。 ■学年に応じた課題研究を設定させる。	■		■	■		
英語	パフォーマンステストを各学年随時実施した。実施の時期や頻度は見直す必要がある。	■生徒の英語力を「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能を総合的に高める。	■スピーキングやライティングのパフォーマンステストを実施し、生徒の英語での表現力向上を図る。 ■英検の積極的受検を促進及び対策、GTECの対策を行い、英語4技能の向上を図る。	■		■	■		
保健 体育	安全に留意した体育の授業を進めることができている。体育活動の中で、自分たちでゲームの審判や進行、得点係などを割り当て、主体的に取り組むことができるようになった。	■男女共習授業の中で生徒自らが考える主体的な活動を増やし、思考力・判断力を養う。	■グループ活動を多く取り入れ、課題を見つけ、話し合い、解決する能力を高める授業展開をする。 ■ダンスの授業において、グループで企画、練習などを行い、発表する場を設ける。	■		■	■		
技術 家庭科	日常生活において、ものづくり、衣・食・住などに関する体験に乏しい。	■学習活動や実習で得られた知識や体験をこれからの生活に生かしていけるようにする。	■プレゼン発表や調理実習をグループで実施し、方法、理由を考えさせる機会を設ける。 ■	■		■	■		
情報	ICTを活用して自分の意見等を伝える技術を十分取得していない。	■目的に応じて適切に取得した情報を、相手に伝わるようプレゼンできるようにする。	■プレゼンを通し、情報の収集・判断・表現・処理・創造・発信・伝達という流れを体験させる。 ■機器の基本的な操作技術を習得する。	■		■	■		
音楽	感染予防の観点から実技演習がほとんどできず、創作や好きな音楽のプレゼンテーションなど試行錯誤したが、音楽表現は十分にできなかった	■歌唱や楽器演奏以外にも、生徒が主体的に音楽表現ができるような活動を検討する。	■作曲や楽器作りなど、様々な創作活動を行う。 ■プレゼンテーション発表を行う。	■		■	■		
美術	再構築出来た学習内容を考察しながら授業実践をしていく事がある程度出来た。	■再構築出来た学習内容を考察しながら授業を実践しさらに深めていく。	■再構築出来た学習内容を再度考察していく。 ■再考察した学習内容で授業展開してみる。	■		■	■		

【学年】

	2021年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2020年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
高校3年	志望校へ向けた学習への取り組み具合が様々である。	■第一志望合格を目指す。	■目標値を把握させ、そのためにどのような努力をするべきかを考えた上で、定期的に振り返りをさせる。 ■模試結果から補習分野を確認し、個人面談を通して自主学習の時間を増やしていくよう指導する。						
高校2年	プレゼンテーションの能力が高い。課題を発見したり解決したりする力は充分ではない。	■起業家マインド(チャレンジ精神・創造力・探究力など)や起業家的能力(情報収集分析力・判断力・実行力など)を育てる。	■実践的なアントレプレナー教育を目的とした研修旅行を計画する。 ■学校生活の様々な場面とSDGsの17目標とを関連して考えるような場面を設定する。						
高校1年	教科学習や探究学習に対して自発的かつ協働的に取り組んでいる。	■学校生活の様々な場面で、自分で(自分たちで)考え判断し、行動できる自律した生徒を育てる。	■生活ノートを活用し、自己のスケジュール管理や学習状況の管理、学習内容の振り返りを徹底させる。 ■対話と合意により主体的な学級活動をさせるために、様々な場面において自分たちで話し合う時間を設定する。						
中学3年	地域の課題について学ぶとともに、課題解決にむけた実践的な取り組みを行うことができた。	■SDGsの視点から深く考え、学ぶ力を身につけさせる。	■昨年度までに学んだSDGsに関する企業などの取り組みをもとに、個人でテーマを設定し、卒業論文を完成させる。 ■課題研究メソッドを活用し、情報の収集・整理・分析・活用能力を高め、仮説の設定、調査・実験の実施を計画的に進めさせる。						
中学2年	SDGsの具体的な取り組みについて調べ発表をすることができた。今後は、より主体的に学習に取り組んでいきたい。	■学年目標である5つの力(傾聴力、思考力、発信力、想像力、行動力)を育む。	■授業、探究学習、クラス活動、学校行事などそれぞれ5つの観点から毎回目標を立て活動し、振り返りをさせる。 ■一定の期間ごとに評価(ルーブリック評価)をさせ、自分の課題を見つけられるようにする。						
中学1年		■基本的な生活習慣を身につけさせる。	■生活ノートを活用し、日々の生活スケジュールの振り返りをさせる。 ■あいさつ・返事・清掃・服装の4つの指導を徹底する。						